

◀ キューロ Q&A ▶

Q 使用上の注意点は？

A キューロは基材中の微生物の力によって生ごみを分解します。日当たり・風通し・水はけの良い環境に設置して快適に使ってください。日陰や風通しのないところでは微生物の働きが弱く分解能力が低下したり、虫やニオイが発生しやすくなります。

Q 家の近くに設置しても大丈夫ですか？

A 大丈夫です。適切に使用すればイヤなニオイや虫の異常発生は起きませんので、キッチンから通いやすい場所がおすすです。水道栓が近くにあれば、なお良いです。

Q 土置き型キューロに底をつけてコンクリートの上でできますか？

A やらない方がいいです。底板のある背の高いタイプのキューロもありますが、地面とつながっていないタイプのキューロは水分調整のための余裕が不可欠なため背を高くします。土置きタイプのキューロに後から底をつけて使うと、下の方で土も水も腐り、悪臭が発生するようになり、底板も傷んでしまう可能性が高いです。

Q SNS などでは小さな容器でやっている人を見かけます。

A 分解できる生ごみ量とキューロの土の量は比例します。つまり、たくさんの土の中で少しの生ごみを土に還すのは、とてもラクチン！反対に、少しの土でたくさんの生ごみを分解しようとするとなオイや虫に悩まされやすくなります。小さな容器には限界があり分解体験用と考えた方が安全です。

Q 追加で必要になる消耗品はありますか？

A 消耗品などのランニングコストはありません。キューロの中で肥えてきた基材を花壇や菜園などの土として使う場合は、取り出した分だけ基材を補充してください。養分が抜けたプランターの土などもキューロで再利用できます。

Q 投入できない生ごみはありますか？

A 人間が食べて消化できるものはたいい投入できます。人間は食べませんが、使用済みの揚げ油は分解をはやめる作用がありますので積極的に入れた方がいいです。貝がらは分解されません。

Q 使い終わった揚げ油の処理はどんな風にすればいいですか？

A 微生物は油が大好きです。粗熱がとれたら鍋から直接キューロの穴に注いでも大丈夫です。他の生ごみに絡めて入れたり、水分がわりに注いでも大丈夫です。

Q どちらかというとズボラです。でも失敗したくありません！

A ズボラさんが上手に使うには、キューロの大原則である「日当たりの良い場所」に設置した「大きめのキューロ」で始めるのが一番です。分解がスムーズなので億劫にならずに続けられると思いますよ。キューロに限らず、循環型の生ごみ処理を断念してしまう理由として「虫とニオイ」が挙げられます。キューロの場合は、少ない土にたくさんの生ごみを入れしまうと、それが発生しやすくなります。

Q 小動物に荒らされないか心配です！

- A** 予防方法があります。生ごみが土の表面に露出することでニオイが発生します。このニオイが虫や小動物を呼び寄せます。生ごみを細かくして入れる・生ごみを土としっかり混ぜ合わせるなどが対策になります。

小動物が多い地域では本体板とフタの間の三角形のスキマに金属製のネットをつけておくと安心です。

空気の通り道を空けておくことがポイント！



Q 毎日入れたいですがいいですか？

- A** 気温が高い夏場や臭う生ごみは毎日入れて構いません。気温が低い冬場は分解速度が下がります。夏場と同じ勢いで毎日入れていると微生物が分解しきれなくなってくるので、室内での一次発酵をおすすめします。季節を問わず、生ごみを細かくすると分解がはやまります。

Q 土の表面にウジ虫がいます・・・

- A** 生ごみを入れる穴が浅くなっていませんか？もしくは生ごみが土の表面に露出していませんか？しっかりと20cmほどの穴を掘り、よくかき混ぜ、仕上げに乾いた土をかぶせておくと虫の発生を防ぐことができます。

Q キー一口の中にたくさん虫が出ました！

- A** 生ごみと土をよく混ぜていますか？生ごみがカタマリになっていることが原因と考えられます。カタマリを砕き、その上に乾いた土をかけてしばらく放っておきましょう。生ごみが分解され食べるものがなくなれば虫はいなくなります。

Q メンテナンスはどのようにすればよいですか？

- A** 分解に支障がなければ、特に必要ありません。ときどき基材全体をかき混ぜ、分解残りを砕いたり、空気を送り込むことがメンテナンスになります。見た目もきれいに使いたい方や分解力が落ちたように感じる方には、ふるいにかけてフカフカに戻ります。

◀コンポスト Q&A▶

Q 使用上の注意点は？

A コンポストで良い堆肥づくりを目的にする人は、繰り返し作業に力が必要なため、自分の体力やかけられる手間を考えて、自分に合うサイズや台数を考えておくと途中ギブアップを防げます。のんびり自然のサイクルに任せて時間をかけられるなら多くの手間は省くことができます。

Q 家の近くに設置しても大丈夫ですか？

A 庭ごみを中心に適切に使用すれば、イヤなニオイや虫の異常発生は起きませんので、キッチンから通いやすい日当たりの良い場所がおすすめです。手間をかけずに生ごみを放り込みたい人は、ニオイと虫の発生は避けられませんので、住居や隣家から少し距離をおいた方がよいかもしれません。

Q 生ごみを地面に直接埋めるのとどう違いますか？

A 畑や庭の土を掘り、直接生ごみを入れられれば、比較的手間もかからず土に還すことができますが小動物が集まりやすくなる可能性があります。小動物を寄せ付けにくいことは容器を利用するメリットと言えます。

Q 追加で必要になる消耗品はありますか？

A 普通に使っている分には問題ありませんが、メーカー等から夏場用の防臭剤や冬場用の分解促進剤が販売されています。ケースに応じて使い分けをしてみましょう。

Q 水分調整材はどんなものが使えますか？

A 雑草、落ち葉、細かい剪定くず、米ぬか、もみ殻、わら、腐葉土などです。生ごみの80%が水分と言われています。それを半分程度に調整し、さらに土をかぶせておくと虫対策になります。



Q ウジ虫が発生しました・・・

A 気になる場合は発生原因を探りましょう！

- ①容器の底は浮いていませんか？下から虫が入らないように容器の下部を埋めましょう
- ②容器本体の投入口の虫予防はしていますか？容器のふちに卵を産みつけられることが多いです。ネットなどを利用しましょう。
- ③水分の入れ過ぎでニオイが出続けていませんか？ハエやアブは腐敗臭やたんぱく質のニオイにつられて集まってくる人が多いようです。

※庭ごみ中心に使うと、このような現象は起こりにくいです。

Q 熟成はどんなやり方がありますか？

A 容器を2基使うと、いろいろラクです。2基目が満タンになる間、容器の中で熟成させると数か月そのままにしておけます。ただし、その間もときどきかき混ぜ（切り返し）ます。容器が1基の場合は、ある程度分解が進んでから容器を外し、畑や庭に積み上げておくか、土の中に埋めて熟成させるなどの方法がおすすめです。

【熟成期間】

季節や投入したものにもよりますが、1ヶ月～1年ほどかかります。

（投入したものが生ごみ中心だとはいやく、庭ごみ中心だとおそい。分解促進作用のあるものを加えていけばはいやく、何も入れないとおそい）

Q 庭ごみ中心でやっています。分解をはやめたいときは？

A 乾燥していませんか？分解を早めたいときは、水分を足してみてください。微生物活動には適度な気温・水分・酸素が必要です。水分が不足していても分解が進みません。

雨の日にフタを開けておくのもおすすめです。

庭ごみ中心だとできあがる土は腐葉土程度が限界です。ときどき生ごみを入れて栄養を足せるといいですね。だんだんと使いこなせるようになった証拠です。

Q 庭や畑がないですが、生ごみを減らしたいです。どのような方法がありますか？

A 電気を使わないキューロやコンポストなどとは違い、電気が必要ですが、電動式のものもあり、多くは自動運転のため手間がかかりません。

電動式にもいくつかタイプがあり、価格や性能にも違いがあります。

自分のライフスタイルや好みにあったものを選びましょう。

（代表的なタイプは3つ：乾燥型・バイオ型・ハイブリッド型）

四日市市では補助金制度も実施しています。詳細は市HPをご覧ください。



（四日市市役所ホームページにリンクします）